古文単語 活用形から見出し語へ ③

高校／活用表を見ずに、本文の形を引ける形にもどす

名前 _____

日付 _____

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
この紙には活用表がありません。習った活用表を思い出し、語尾の形と、――線の語の下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 用ありて行きたりとも、その事果てなば疾く帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。
（徒然草・第百七十段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 その子、孫までは、はふれにたれど、なほなまめかし。（徒然草・第一段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 これを学ばむをば、いたづらなる人といふべからず。
（徒然草・第百二十二段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 さがなき童どもの仕りける、奇怪に候ことなり。
（徒然草・第二百三十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

5 六位の外記康綱、衣被の女房をかたらひて、かの宣命をもたせて、しのびやかに奉らせけり。
（徒然草・第百一段）

見出し語	活用の種類	活用形

6 次ざまの人は、あからさまに立ち出でても、興ありつることとて、息もつぎあへず語り興ずるぞかし。
（徒然草・第五十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 八重桜は異様のものなり。いとこちたくねぢけたり。植ゑずともありなむ。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 「子安貝とらんと思しめさば、たばかり申さん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

9 公には、「筑紫の国に湯あみにまからん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

10 その後翁・嫗、血の涙を流してまどへどかひなし。
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ③【こたえ】

高校／活用表を見ずに、本文の形を引ける形にもどす

名前 _____

日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

1 用ありて行きたりとも、その事果てなば疾く帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。
（徒然草・第百七十段）

→ 文がここで終わる → 終止形

見出し語	活用の種類	活用形
むつかし	形容詞シク活用	終止形

2 その子、孫までは、はふれにたれど、なほなまめかし。（徒然草・第一段）

→ 文がここで終わる → 終止形

見出し語	活用の種類	活用形
なまめかし	形容詞シク活用	終止形

3 これを学ばむをば、いたづらなる人といふべからず。
（徒然草・第百二十二段）

→ 下に体言「人」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
いたづらなり	形容動詞ナリ活用	連体形

4 さがなき童どもの仕りける、奇怪に候ことなり。
（徒然草・第二百三十六段）

→ 下に体言「童」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
さがなし	形容詞ク活用	連体形

5 六位の外記康綱、衣被の女房をかたらひて、かの宣命をもたせて、しのびやかに奉らせけり。
（徒然草・第百一段）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
かたらふ	動詞ハ行四段活用	連用形

6 次ざまの人は、あからさまに立ち出でても、興ありつることとて、息もつぎあへず語り興ずるぞかし。
（徒然草・第五十六段）

→ 用言「立ち出で」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
あからさまなり	形容動詞ナリ活用	連用形

7 八重桜は異様のものなり。いとこちたくねぢけたり。植ゑずともありなむ。（徒然草・第百三十九段）

→ 用言「ねぢけ（たり）」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
こちたし	形容詞ク活用	連用形

8 「子安貝とらんと思しめさば、たばかり申さん。」
（竹取物語）

→ 下に補助動詞「申す」（申さ） → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
たばかる	動詞ラ行四段活用	連用形

9 公には、「筑紫の国に湯あみにまからん。」
（竹取物語）

→ 下に助動詞「ん（む）」 → 未然形

見出し語	活用の種類	活用形
まかる	動詞ラ行四段活用	未然形

10 その後翁・嫗、血の涙を流してまどへどかひなし。
（竹取物語）

→ 下に接続助詞「ど」 → 已然形

見出し語	活用の種類	活用形
まどふ	動詞ハ行四段活用	已然形